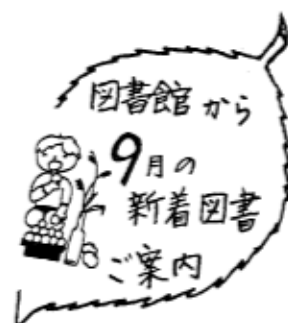


- ③ 楽山楽寿会
- ④ 上天天神会
- ⑤ 永生第二小学校児童会
- 昭和六十一年度主要事業 ■
- ① 毎月第一日曜日は、清掃の日の推進
- ② ゴミステーションの清潔保持の推進
- ③ 花いっぱい運動の推進
- ④ 河川愛護運動の推進
- ⑤ 道路を守る運動の推進
- ⑥ 通学路及び学校周辺の清掃
- ⑦ ゴミ持ち帰り運動の推進



図書館を生活の中へ、そして自分の本とめぐりあってください。お待ちしております。

◇一般図書◇

富士光彩 飯島志津夫写真集
アメリカン・ユーモアの話

加島祥造 円高・ドル安の読み方

西村 厚 教育をゆがめるものはないか

上田 薫 ママ考えてよ幼児の食生活

山内 愛

家のカビ・ダニ退治法

市川栄一

ある映画の物語

フランソワ・トリュフォー

わたしの万葉集

平岩弓枝

旅の幼燈

五木寛之

イグゾーストノイズ

大脇 游

魂のゆりかご

田中阿里子

不滅革命の時代

吉本隆明

レッド・フォックス消ゆ

アンソニー・ハイド

外一四〇冊

◇児童図書◇

中国の歴史 全十二巻

伝記 世界の偉人 全十七巻

からだの国の探険

トンボの楽園

見つけた？まぼろしのチョウ

ムササビと77人のなかまたち

歩け泰治

新ちゃんがないた！

外八〇冊

一計

一般図書 一五三冊

児童図書 一一五冊

ママ一人で歩くよ！

今、親子の「しがみつき」ということを指摘する精神科の先生がいます。特に親が子離れできないということの問題にしているのです。

人間は、一歳半から三歳位までの間に、一回目の親子の別れがあります。又十歳から十二歳位の間に二回目の親子の別れがあるとしています。

特に障害のある一部の子を除いて、一歳半から三歳位の間に子どもは親から別れようとしています。その時、親、特にお母さんは、意識しないで妨害しようとしています。その例として、子供が、けがでもしたら大変だという自分の不安が先に立って、思わず子ども

を危険から避けようとする行為がそうです。子どもは駆けだして、何かにつまずいてひざをすりむいて泣く、といったことなどの体験をつみ重ねることによって動物的に危険から身を守ることを習性として身につけていくのです。

このように、子どもの自然の成長を避けさせる親の養育態度を過保護・過干渉といいます。一歳半位から、三歳位までの間に親が過保護・過干渉という「さく」をつくってしましますと、子どもはそこからでることがなくなってしまうのです。そして親のいいなりになる見かけだけのよい子世話のかからない子になります。

十歳から、十二歳位の親子離れを「心理的離乳期」という学者もいます。気持ちの上での親子の別れなのです。親は子どもに對する不安をこまかく為に干渉しすぎて子どもの自立を妨げる傾向があります。親が子離れできない、いつまでも子を乳母車に乗せておきたいというような気持ちの強く働く方がいるということです。これが思春期の親子病というようなことの原因をつくっているのではないのでしょうか。

子どもが外へ向かってでて行きたいというようになった時、だまって遠くから見守っていられるようにしたいものです。子どもは外へとび立って行っても親、特にお母さんは基

地です。自立して成長した子どもの心のよりどころは基地である母親なのです。母親という暖かい基地から子どもの成長を見守りたいものです。正常に育って、親に手をやかせないよい子と見える子がある日突然学校へ行けなくなったり、非行に走ったり、家庭の中で暴力をふるったりするようになる時があります。そうなる親はおろおろしたり、自分の子育てをうたぐったりします。今の世で自分の子がそうならないという保証はどこにもありません。少しでも不安があったり、子育てのわからないことがあったら教育相談室を利用して下さい。

☎(43)1111 内線216
「教育相談室」

